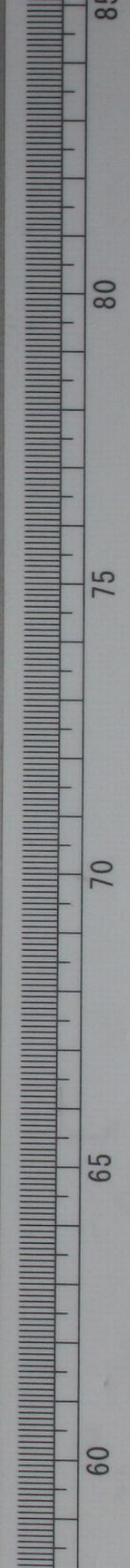




中村俊定文庫
文庫 18
246



徳の文庫

山南翁中菴月次及句之
會 各持夫か句共

中村俊定

院

當座

桐橋の流心くせー口草ぬぬ 水五

灌仏や谷村お寺りふん法事

名目やるるかきく破所い

孫教しぬ鳩も来々鳴十夜に 雁砂

池田乃密子行い

古くは信と態神の雛と長し

秀東堂

長壽齋

物と起しく星は初見の
 中に入や敷乃液一は夕日新
 申ふ款の汁も淋しき小家
 當 梅神を果やよづかし大根引
 多道や阿の笠も顔も黒まじ
 仙亮
 月夜に物すも雲のさそ浪のど
 父陽やまぶ啼阿まゝ雛子の夢
 為文
 當 何草を一かふまゝ一社ふれ

蝶ふや笑へる川向ひ 社園
 友也兄く馬笑ふや炭ひし
 七は秋乃暖急勤くは祇園町 光介
 何くははるるや田中の齋の白ひ
 當 ゆく雁は秋見の雪や筆の雪
 見とせよ耕うへ乃物赤子
 警石段 曾夕
 飛白合や燈一はけく蓮のま
 當 陰もすりほり入るやちめく

照はく十一一ニ一と東 社園

弱の何々川さすかきり 光介

は美さの雲からつゞもぶんぼろが 露

つらむを平さくゆく餅やあ 海

もあひの姫をささくはささ 亮

申ふるのゆめと正さのあ 夕

せきののびたさくくささる 介

え古屋より何々の京町 為文

涼一ちやほほる小紋のちほ美 童

あゆみ蘭(月)のさすくみちと 入

羨しく年のさくはく居る 海

竹の小豆、老るく何さ也 亮

船宿ハ多ねれさくよ細路 夕

おちの尾節のさくさく 露

晦々さくさくをさくさく 介

こぼれくさくはくさく 童

其月のぬくほのさるる鬼まじり入
おとどく何れがまんし〜
ろ〜し〜と揺〜く膝のまど 亮
は〜んを押しせまふや〜く 河
以夜借つ引〜湯つげよお白ひ 寄
ま〜らも少〜か隈 毎の雪 夕
同〜ひよま〜と奥の庭
お〜ぬおよ少〜る流川 入

又白内へせ〜く扉ひ〜流獄〜寄
袖乃雲もゆ〜る人 亮
以は後うね角お〜くぬ〜り 河
月とか片ま〜く〜る角ひを 夕
何業をす〜る〜る〜る〜る〜る 夕
此〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 面ツモは 録 編 入
望〜い〜ち〜り〜び〜る〜る〜る 刀片〜 河
大〜し〜し〜は夜のま〜る〜る 夕

二

らんらんか茂乃法家町
勝平ひと乃 歌ほりも
ゆるちとひゆくり位得
二月さくらふも 晴る三
何取もかもさゆく花の
お梅お菊ちや腰えの名
待宵此髪もさけき鳥
あー乃さ小虫の山
亮

か隅の愛深堂より
けささささささささ
殿もやさささささ
鶺鴒乃妻の走りか
弁茶いほんや印るの
縁やひしりや腰帯や
一ささり乃もさす
ささささささささ
亮

りつきの乾も小原乃よんけん
 花檀母そくくんせき
 采窓より川女紫衣とふ
 焙炉くくろの葉子ハハ
 時香はつ成水鳴く通りり
 靴の履は光るかくや
 茶の湯ちりおきぬ生花
 長〜海胆花の仔
 香 香 香 香 香 香

丸那よあま〜さる紋ぐ
 ゆりひとこがくおるし
 周子〜^{ミヤ}がこも月見の小重
 物水〜^{ミヤ}あま〜^{ミヤ}雨のす
 桐を井三の〜りねいあのり井
 こほし松葉ふを握りて
 えづ〜ぬすふり小諸ゆ
 おも〜ぬい名を附〜検校
 亮 介 入 夕 海 亮 夕 入

後

丸

唐の麦の節の相のり
 家田のたのしみは
 多の愚痴のあはれ
 星のしるしは
 うらなひの
 息のふたつ
 正乃寺見ゆふも
 草の又

家
 夕
 海
 香
 臺
 介
 亮
 入
 夕
 家

うらなひの
 正乃寺見ゆふも
 草の又
 息のふたつ
 うらなひの
 星のしるしは
 多の愚痴のあはれ
 家田のたのしみは
 唐の麦の節の相のり

家
 夕
 海
 香
 臺
 介
 亮
 入
 夕
 家

八番のうけく大桶を掛あるく 亮
 ちくもうしこも夜をりけ古 夕
 庵んらん空嘯をほく息ほ賣 夕
 床をぬかたき山を 夕
 秋といふある屋をうらうら 夕
 春の露や春ものには由 夕
 滴流るのおまの天海のあま 夕
 かほくひ露のるをなくする 亮

おもくわしそし羽織をほく 文
 西もむのしもそく入お 介
 こなけらこらんもきぬ振つり 夕
 抱の口めたりけおゆく 夕
 七ぼもよ旭きく雨下り 露
 蜂もさく後何系韻 夕

山嵐乃干ニ吹くぬる雲の物 層河

箕く水を流る料理場 魯文

豆腐まはねえ、りり華露降 為文

夫婦の尻の禪子かゝぬく 為文

書お屋の名も 面ふふ文彦 為文

竹せしく 吹石亦の筒 杜倒

みく雨よ女侍ひのぬけり 不

公安そりり 屋敷のつる 枝

世々流るるきりけいこのをりぬ 蛙

夕日よかあまはく三日月 露

芒原へ茶袋まけるむの山 不

風乃 這も 去乃ぬくとと 蛙

二 廂僧徒竹の窓く春の聲 雷

時雨を漕く通る土舟 不

比目指の中よ 揺のり 蒼む 枝

所々 志いのと 小町口 切 露

けり豆の鉢も 懸りゆく後雨一
 お吐きもくも 膝指せんぞん
 うちはまゝくさ藤にさるゝの跡も
 想身ハミぬ志のほゆと行
 紅井の取ッハミぬるさるゝ處
 月出さるゝ代よさるゝ河あり
 川のわはく具足提よ月の前
 夏見ゆ店もさるゝ新地
 枝 蛙 石 家 蛙 石 枝 跡

亭本畑少種よよ並みそえ 畑
 虚空子かけるさるゝ舊の觸
 想門も冷雲ちりりさるゝ思ひ寺
 田かくの面よさるゝ味のい石
 室もさるゝ花と唐崎さるゝ川
 茶摘七やけや葉の初る
 枝 蛙 露 枝 石 枝

120

宿亭

是也路



江戸彫工芥澤秀七

野

三

西河書齋

長卷